

上部内視鏡検査（胃カメラ）を受ける患者様へ

《検査目的》

上部消化管とは、食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・癌・食道静脈瘤など）を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

《方法》

まず、胃の中を見やすくするシロップを飲んでから、経鼻の場合は鼻腔に、経口の場合はのどを麻酔薬で麻酔します。内視鏡を鼻ないし口から挿入し、上部消化管をまんべんなく観察します。

検査中に何か異常が認められたり、また疑われた場合には必要に応じて以下のような処置を行う場合があります。

- (1) 粘膜組織の一部を鉗子でつまみ（生検）、組織（細胞）の検査を行います。
- (2) 病変部位に安全な色素を散布し、病変を明瞭にして診断の助けとします。
- (3) 出血などが見られた場合には止血処置を行うことがあります。

《合併症と危険性》

精密な検査ほど、偶発症（合併症）の頻度が増加します。内視鏡検査による合併症としては以下のようなことが報告されています。

- (1) スコープによる粘膜損傷や裂傷、まれに穿孔（消化管に穴が開くこと）
- (2) 生検による出血
- (3) 検査前にあった疾患の悪化など
- (4) のどの麻酔等の薬剤によるアレルギー反応など

日本の消化器内視鏡学会が調査した全国集計によるとその頻度は 0.007%、死亡率は 0.00045%でした。万一、偶発症が発生した時は外科的処置を含めた最善の処置を致します。なお、患者さんにとって最善の検査になるよう心がけますが、病変があった場合は専用の装置や組織採取等別の検査が必要になる場合もあります。

同意書

上記のように上部消化管内視鏡検査の内容について説明を受け、理解しましたので上部消化管内視鏡検査を受けることに同意致します。

なお、検査中に緊急の処置を行う必要性が生じた場合には、適宜処置されることに同意します。当日は車、バイク、自転車の運転は行いません。

平成 年 月 日

患者氏名 : _____

代理人氏名 : _____ (続柄 : _____)

高松内視鏡診断クリニック

nishitakamatsu.All Rights Reserved.